

仕事と家庭の合間で

土屋郷子

卒業後10年もたつと、結婚している人は、そろそろ第一子が小学校に入学する頃、仕事をしている人は職場で中堅の立場に立つようになっていく頃でしょう。結婚も仕事も選んでしまった場合はどうなるか、私の近況をお知らせして、クラスメートや先生方への日頃の御無沙汰のお詫びにしたいと思います。

中学校現場は忙しく、活気にあふれています。幸いにも、ここ島根の田舎では、マスコミで言われる校内暴力や非行とは無縁に過ごしてきましたが、小さな問題や悩みはよくあります。

出雲市から車で30分ほど南に入った山の中学校ですが、生徒たちはテレビや雑誌の影響で、情報は素早くキャッチしていますし、自然があふれた中に育っていても、遊びはファミコン、ラジコン、ローラースケート、スケートボードなどです。中学生らしい成長というか、悩みもやはり共通で、友達のこと、進路のこと、部活のこと、親のこと、異性のことなどです。毎日の生活ノートで対話していますが、個人面談をすると、日頃話さない生徒でも結構話してくれて、私にとっても楽しいひとときです。教育実習生でも、生徒と話すのが楽しめる人は教員を目指すようです。

一方、社会科という教科は、とても難しい教科で、幅広く深い教材研究と、授業構成の工夫が必要です。始めのうちは、自分の中にいっぱい詰め込んでいれば、何かが伝わるのではないかと、自分の知識を増やすことばかり考えていましたが、そのうちにそれだけではいけない、と思うようになりました。いかに興味深く、分かりやすく中学生に伝えるか、なのです。

例えば、3年公民の、「独占」のところでは、生産の集中が著しい商品—ビール、マヨネーズ、写真フィルム、化学調味料各数点—を教室に持ち込んで、シェアや価格の面から疑問点を出し、独占に至る経過と弊害を探ってみる、という具合です。2年歴史「四民平等と差別」では、明治になって四民平等になったというけど本当にそうか?と聞いておいてから、華族・士族への俸禄や残った差別の実態などの資料をどんと与えて同和教育の直接指導を行いました。1年地理「南

ア共和国」では、アパルトヘイトの実態から、なんでそんな不合理な差別を世界中の批判の中で続けられるの、日本の責任についてはどう思うのと意見を言わせてみます。

いずれも教科書をそのまま暗記させるのではなく疑問や課題を出させて、それを討論したり、お互いの感想を話し合わせて、生徒たちに興味を持たせようとしています。そういう点で、授業中に発言するということはとても大切なことです。田舎の大人しい子供たちに授業中いかに口を開かせるか、グループ討議を試みようか、感想をまず書くことから始めようか、興味深いビデオはないか、そんなことを教員同志と一緒に考えたり、工夫してみたりしています。また、遠足、キャンプ、修学旅行、体育祭、文化祭、スキー合宿などの行事も楽しいもので、小学校ほど教員が手助けする必要もなく、高校ほど教員抜きでの活動ばかりでもないのが中学校の魅力でしょうか。

さて、学校ではそんな生活ですが、これをふたりの幼児を抱えて日々行うのは、やはり大変なことです。幸い、自宅からすぐ近くの保育園に二児を預け、また歩いて5分のところに実家があり、園の送迎や病気のときなど手伝ってもらっています。夫は高校教諭、サッカー部の監督で土・日も家をあけることが多いのですが、家にいるときは、私以上に家事と育児をやっています。二人目の子供が生まれてからは、彼の感覚が、「家事を手伝う」から「家事を行う」に変わりました。二児にそれぞれ一年間の育児休業をとり、ゆったりと母乳で育てられたと言う点でも共稼ぎをするのに教員は適していると思います。

とはいえ、夜泣きの子供を抱きながら勉強したり、病気の子供をおいて出勤するのはとても辛いものです。そんなとき、家で主婦業をしている人が羨ましくなります。しかし、職場も家庭も理解があるし、連帯する仲間が多いので、今は大変だけど、できる限りがんばっていこうと思っています。去年は自宅も新築し、励みになっています。山陰にお越しの際は是非お立ち寄り下さい。
(27回生)